

令和８年度 第１回浜松市立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時 令和８年６月３０日（火） １０時００分から１２時００分まで
- 2 開催場所 浜松市立中央図書館 大会議室
- 3 出席状況 委員：岡田 建志、清水 友理子、遠藤 浩子、井手 千恵子、
金子 広祐、鶴見 俊輔、原田 哲良、森田 智佳

事務局：

文化振興担当部長 嶋野聡、
中央図書館長 大久保亨、
中央図書館館長補佐 齋藤慎悟、
図書館管理グループ長 森下昌和、
図書館サービスグループ長 島野陽子、
調査支援グループ長 川崎智子、
資料・情報グループ長 鵜飼康生、
天竜図書館長 山下譲、
春野図書館長 梶田和彦、
水窪図書館長 田中裕彦、
中央図書館 森田ひとみ主任、北村麗風

欠席：

佐久間図書館長 奥山享司、
龍山図書館長 宇井智洋

- 4 傍聴者 ０人（一般：０人、記者：０人）
- 5 議事内容 （１）令和７年度事業報告
（２）令和７年度図書館評価
（３）令和８年度主要事業計画
（４）その他

- 6 会議録作成者 図書館管理グループ 北村麗風

- 7 記録の方法 発言者の要点記録

- 8 会議記録

- 1 開会
2 図書館協議会委員の委嘱
3 会長あいさつ
4 文化振興担当部長あいさつ
5 職員紹介
6 議題

(1) 令和7年度事業報告

島野図書館サービスグループ長が説明
◆資料1―令和7年度事業報告

質 問 意 見

岡 田 委 員 資料1のP4の相互貸借や、P17の国立国会図書館の送信サービスについて。浜松市立図書館としては、蔵書の利用がメインのサービスではあると思うが、他の図書館との連携によるサービスの提供も非常に有益なものであると思う。利用件数としては、例年どのくらいの件数であるのか知りたい。

川 崎 G 長 ここ数年の件数としては、目立った増減は無い。利用者にも周知されており、一定の利用があると判断している。
国立国会図書館の送信サービスについても、大きな増減は無い。今後、コンテンツが増えれば、利用も増えるのではないかとと思われる。

岡 田 委 員 相互貸借については図書館職員の手間が増えてしまうが、利用者の活発な利用が期待できる。
国立国会図書館の送信サービスについては、個人で利用申請しておらず、図書館を通じて利用する場合は、図書館の職員が利用中は常にそばにしているようになっているのか。

川 崎 G 長 サービスを提供しているのが中央図書館と城北図書館の2館である。どちらの館も、職員がいるカウンターから目の届く範囲で利用していただいている。

岡 田 委 員 複写も職員に声をかければ可能であるのか。

川 崎 G 長 有料ではあるが可能であり、職員が対応している。

岡 田 委 員 利用者が激増してしまうと大変だが、せっかくのサービスなので利用が増えていくと良い。

原 田 委 員 多文化サービス事業の行き詰まりについての話があったが、どのような広報を行っているのか知りたい。

島 野 G 長 現在、ブックスタートに関しては、チラシにQRコードを載せているが、以前は外国語に翻訳したチラシを配って、関係機関に仲介していた。また、通訳ボランティアの方に広めていただいたこともあるが、それでも反響がなかった。
他にも、外国人が集まるイベントでの図書館紹介や、出張領事館に向いてパスポートの更新時等にPRをしたことがあるが、浜松地域以外の方も多く、対象者に繋がりにくいと感じた。他にも試行錯誤したが、さらに知恵をいただけたらと思う。

原 田 委 員 浜松城公園近くに住んでいるが、外国人の方たちがよく集まっている。ブースを作ったら広まっていくのではと思うが、そのようなことは行っているのか。

島 野 G 長 出生届を提出するときにブックスタートのお知らせを翻訳したものを配布するようにしているが、なかなか直接対象者に繋がらないという点が課題となっている。

(2) 令和7年度図書館評価

森下図書館管理グループ長が説明

- ◆資料2 図書館評価について
- ◆資料3 図書館評価の方法について
- ◆資料4 令和7年度浜松市立図書館評価指標
- ◆資料5 浜松市立図書館評価(令和7年度)案 ※自己評価

- 井手委員 ブックスタートについて。コロナ禍前は申込無しで参加でき、とても盛況で、多くの親子が参加していた。今は申込が必要であり、何組までという制限もある。対象となる年齢の子どもは、すぐ熱を出したり、天候が悪かったりと、様々な理由で出かけるのをやめることも多い。
ブックスタートの申込制度について考えを聞きたい。
- 島野G長 以前は申込制ではなく、どこの館にいつ行ってもいいという状況であったため、逆を言えば蓋を開けてみないと参加者数がわからなかった。ならして見ると、今よりは参加者数は多かったのではないかと思う。そう考えると、やはり今は申込制という煩雑さがあると思う。
コロナ禍は、ソーシャルディスタンスを保つため、大勢で行事を開催することができず、定員を決めて実施していたが、現在は、駐車場の確保が困難であることなどを理由に、申込制の継続を希望する館が多い。また、参加者数が読めないとなると、職員勤務体制を決めづらいという問題もある。ブックスタート事業は、全館の指定管理者を含めたスタッフの協力も必要になってくるため、業務体制が整うような方法を考えながらできるだけ多くの方を受け入れられるよう、今後に向けて検討していく。
- 清水委員 資料5のP2の「生かす」の障がい者向け資料の延べ利用者数について、具体的にどのような障がいを持った方に対してどのようなサービスがされているのか知りたい。
- 島野G長 一般図書と分けてカウントしており、資料として区分できる状態であるのが、視覚障がい者に対する録音図書や点字図書である。発達障がいや精神障がい専用の区分はしておらず、一般図書の中から、対象者が利用できる本を選んで借りている状況である。そのため、統計がなく、利用状況を把握するのは難しい。
- 清水委員 図書館の中での障がい者向けのサービスというとおそらく視覚障がいを持った方に対してのサポートが多くなると思う。識字障がいや、あるいは発達障がい等は、本を探すことにも困難があるはずなので、探すサポートであったり、読む環境の工夫であったりとか、様々な障がいに対してきめ細やかなサポートが今後求められてくるのではないかと。
また、聴覚障がいの方に関しては、環境作りとして何か工夫している点はあるのか。

島 野 G 長

サービスの面について。最近、ＬＬブックや、文字・ピクトグラムを見て、理解する内容の本の出版が増えており、積極的に購入するようにしている。

また、障がいのある方への読書支援と、読書バリアフリーに関する本の紹介を、通称りんごの棚として設置する取り組みが全国的に広がっている。中央図書館にも今年度から設置した。視覚障がい以外にも関連する資料を積極的に収集したいと考えている。出版数の面からみても、圧倒的に視覚障がいサービスが充実していたが、今後は視覚障がい以外にも充実していくのではと考えている。ＩＣＴ活用も前向きに考えていく。

聴覚障がい者の面では、子ども向けにはなるが、お出かけおはなし会として、聴覚特別支援学校の子どもたちに、視覚で楽しめるような絵本の読み聞かせを行っている。

齋 藤 補 佐

施設面について。視覚障がい者については、点字ブロックの設置や、大規模改修後の南陽図書館には、例えば「何メートル進んで右に曲がると図書館の事務所があります」といった音声ガイダンスを入口に設置する。聴覚障がいの方など、利用しやすさを考えながら、検討していく。窓口で筆談サービスを提供するなど、様々な工夫ができると思うため、臨機応変に対応する。

清 水 委 員

資料５のＰ９の今後に向けた課題について。障がい者が疑われる利用者のトラブルや、カスタマーハラスメントが疑われる事案があるとのことで、スタッフの方々の対応には、さらにきめ細やかさが求められてきており頭が下がる。

解決に向けて、トラブルを起こさないようにというよりかは、障がいのある方が心地よく使える図書館にするため、マニュアル等を作るという理解でよいのか。

齋 藤 補 佐

最近、精神障がい者が疑われる方が来館されることがある。もちろん図書館は身近な公共施設であるため、どなたでも図書館を利用していただくことが、最終的な目標ではあるが、他の方に害を加えたり、迷惑行為をしたりする方も中には見受けられる。一般的な利用者の方に迷惑がかかることを防ぐため、声掛けをし、静かな利用をお願いするなどしている。さらに、大きな声を出して騒ぎになってしまう場合には、警察に連絡することも最近起きている。

様々な利用者が過ごしやすい図書館とは何かを学ぶため、今年度、精神保健福祉センターにて精神障がいを学ぶような研修に参加をした。今後、市内２４館の職員向けに、精神保健福祉センターの職員を講師として招いて研修を行っていきたい。

また、カスタマーハラスメントについても研修をし、どのような対応ができるのか学ぶ必要があると感じている。

岡 田 委 員

資料５のＰ４・５について。小学生向けの対応に関連し、複本の追加購入ということで、使用頻度の高い本をそろえることも重要かと思うが、一方で予算や収納スペースの問題もあるかと思う。どのくらいの数をそろえるという基準や、あるいは需要と制限のバランスの取り方等について、どのような考えか。

島 野 G 長	資料の対象によって少し変わる。子どもの本に関しては、図書館に来た時に手に取れるよう、需要の多いものをそろえている。ロングセラーで安定的な良書と呼ばれるものをなるべく揃え、来館したときに無いことがないよう努めている。一般書に関しては、予約をして借りることも考えられるため、市内全域のバランスをとって購入している。
鵜 飼 G 長	児童書については消耗が激しく、汚破損などで除籍していく本もかなりあるため、追加購入で維持をする。一般書についてはこちらも消耗はあるが、多数の予約に対応するため、全体のバランスをみて、複本の購入を進めている。
岡 田 委 員	今後に向けた課題として、雑誌の休刊とある。休刊した場合にはその棚に追加されなくなり、歯抜けになってしまうのでは、と懸念されるが、どのような対応をするのか。
鵜 飼 G 長	雑誌については、各館で1年間を通して購入するものを年度当初に決め、購入する。だが、年度途中休刊になり、最新号のところだけが抜けることがある。しかし、バックナンバーは継続して貸し出しをしているため、棚のその部分が完全になくすることはない。また、年度単位で新しいものを購入するため、抜けた部分には、翌年度また新しい雑誌を購入し、埋めていくことが多い。 最近、途中での休刊や刊行頻度変更など、突然の変更が相次ぐため、購入の仕方を工夫しなければと考えている。
森 田 委 員	小学生向けのおすすめ図書リストを改訂したということだが、改訂後の手応えはどうか。やはりリストの本が多く利用されるのか。
島 野 G 長	データを取っていないため確実なことは言えないが、改訂時に並行して行ったテーマ展示期間に利用が増えたように感じている。

(3) 令和8年度主要事業計画

島野図書館サービスグループ長が説明

◆資料6__令和8年度主要事業計画

- 森 田 委 員 読書バリアフリー体験会について。年に1度中央図書館で行う以外に、回数を増やす等、拡大していく予定はあるか。
- 島 野 G 長 昨年度、浜松ライオンズクラブ様に、拡大読書器や、デイジー図書(デジタルの図書)を利用するための専用機械であるプレクストークを寄贈いただいた。細江図書館・はまゆう図書館に拡大読書器が追加され、城北図書館では声のライブラリーにおいて点字図書や録音図書を提供しているため、プレクストークが新たに追加された。中央図書館にも、携帯型の少し使い勝手の良い拡大読書器の寄贈があった。寄贈いただいた館を中心に、体験会の開催を検討していきたい。
- 鶴 見 委 員 最近のニュースで、図書館に泊まるという取組を聞く。浜松市は行う予定はあるか。
- 齋 藤 補 佐 検討はしていない。ぬいぐるみお泊まり会を行っている館があるが、人が泊まることについては、セキュリティの関係など様々な問題があるため、今後検討していくというような段階である。
- 遠 藤 委 員 ブックスタートについて感謝を伝えたい。先ほど井手さんから話があったが、ブックスタートというのは子育て中の親にとって大切なことで、読みきかせの重要性が分かるきっかけになるとすごく嬉しいと思う。資料6のP2に、市内の図書館や保健福祉センターで行っているとあり、とても嬉しい。保健福祉センターでの、4ヶ月児検健診にブックスタートの資料等は配布されているのか知りたい。4ヶ月児健診は子育てがこれからのときであるため、各地区の保健センターとの連携が進むと良いのではないか。
- 島 野 G 長 4ヶ月健診ではブックスタートは行っていない。全国的には健康相談や何ヶ月健診というところにブックスタートを抱き合わせで行っているところが圧倒的に多い。だが、浜松市においては、1歳未満の集団健診が少ないというのと、4ヶ月では絵本以前に子育てに慣れてない保護者の方々がほとんどでは、という考えもある。
また、健診会場はとても忙しく、健診内容だけでもプログラムが多いので、図書館がその中で説明・介入するという時間が取れないという物理的な事情もある。
ただ、個別訪問の際に、保健師さんから直接ブックスタートの招待状を手渡しし、参加を促していただいている。そういう意味では連携も進めており、今後も行っていく。

9 会議録署名人 岡田 建志 会長

森田 智佳 委員

令和8年6月30日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いないことを確認した。

令和8年8月19日

署名

岡田 建志

署名

森田 智佳